



かわらばん

編集・発行

大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター

大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1
TEL: 072-957-2121 FAX: 072-958-3291
E-mail: kokyucen@ra.opho.jp

平成29年2月

第212号

ホームページ



ジャガイモの話

副院長 土居 悟

イモという言葉は、わが国ではあまりよいイメージをもっていません。おまえはイモだと言われるといやですね。しかしながら、山本紀夫さんの『ジャガイモのきた道』という本を読みますと、イモ類のひとつであるジャガイモは、小麦、トウモロコシ、米について、栽培面積が世界第4位を占める重要な作物であることが分かります。ジャガイモの故郷を知っていますでしょうか？それは、はるか南米のアンデスなのです。そこからヨーロッパには16世紀に、日本には長崎にオランダ船で遅くとも江戸時代には伝えられていました。そして、長崎から北海道など全国に広がっていきました。江戸時代には寛永の飢饉をはじめとして、しばしば飢饉がありました。このような状況の中で、気候不良でもよく育つソバと暴風雨に強く栽培が容易なジャガイモは飢饉を生き延びる食物として栽培が推奨されました。また戦時中の食料としても欠かせないものとされ、日本のジャガイモの生産量は昭和15年頃から急増しました。

ところで、昭和のはじめ頃に生まれた人に聞きますと、来る日も来る日もイモを食べて空腹をしのいだ戦時中、戦後の食糧難の苦しい思い出を語られます。イモは代用食でした。でも、栄養面では、ジャガイモは米、小麦にくらべてカロリーは少ないがカリウム、ビタミンCを比較的多く含むので、調理法に注意すればヘルシーな食物です。イモ類は太陽エネルギーの効率が高く、一定面積の土地からとれるカロリーは穀物よりずっと優れていますし、土壌水分の利用効率も高いので、国際的には貴重な食物です。

時には、「イモは世界を救う」と言えるのかもしれませんが。



精密医療（プレジジョン・メディシン: Precision Medicine） 肺腫瘍内科 主任部長 平島 智徳

昨年11月20日にNHKスペシャルで放映された「がん治療革命が始まった～プレジジョン・メディシンの衝撃～」をご記憶の方も多いと思います。この番組は、当センターも参加しているSCRUM-JAPAN（スクラム・ジャパン）の活動内容をレポートしたものです。SCRUM-JAPANでは、がんの遺伝子（親から子へ遺伝するものではありません）を次世代シーケンサーという最新機器で詳細に調べて、ある特定の遺伝子に異常があった場合は、それにあった薬剤で治療を行う方向性を検討するというものです。現在は、まだ研究的な段階で、ある特定の遺伝子異常が判明したらすぐにそれに適合する治療が行えるわけではありません。しかしながら、今後はがんの遺伝子変異を詳細に調べてそれに合致した薬剤を用いて治療する方向に向かうものと思われます。このように、がんの遺伝子、個人の遺伝子、生活環境や個人のライフスタイルの違いを考慮して「より精密な対応を行う医療」という新しい考え方の医療を精密医療（プレジジョン・メディシン: Precision Medicine）といいます。

米国においては2015年1月の米国のオバマ前・大統領の一般教書演説（年頭に行う重要な政治課題に関する演説）の中の「がんや糖尿病などの疾患の克服や健康を維持するために必要な個別化情報

にすべての国民がアクセスするための新しい方法（精密医療）を立ち上げる」という宣言のもとに2016年に2億1500万ドルの予算を投資して精密医療の研究が本格的に開始されました。従来型のがん治療は、平均的な患者を想定してデザインされていますが、これは「ある患者群には大変効果のある治療ではあるが、その他の患者にはほとんど効果がない」ということを意味します。しかしながら精密医療においては、有効な薬剤を効果の期待できる患者に的確に届けることを目指すことになります。

精密医療に関して一見、米国がかなり先行しているように思えますが、実は日本が国民皆保険制度の下、一部のがん患者さんでは、精密医療が日常臨床ですで行われています。2015年のかわら版で紹介したがん免疫療法や今回紹介した精密医療は、今後のがん医療の在り方を大きく変えていくものと思われます。



地域医療連携室の仕事って？

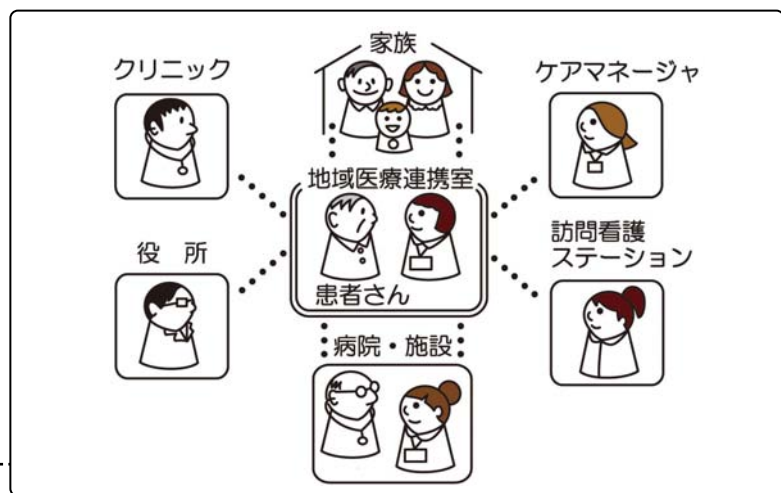
地域医療連携室室長 中出 亜希代

昔は、急性期治療から療養・リハビリ、あるいは最期の看取りまで1つの病院で全てのことが完結されていました。しかし、ここ数年で病院の役割は細分化・専門化してきています。

当センターは急性期（慢性疾患の急性増悪を含む）の治療をする病院という役割を担っています。急性期の治療は終わったけれど、入院前より体が動きにくくなった、自宅で過ごすのには介護や支援が必要だ、ということもあります。そんな時、患者さまやご家族さまに「退院後にどこで、どのような暮らしがしたいか」という思いを伺い、地域の医療機関や役所・福祉サービス機関との架け橋の役割をしているのが病院の『地域医療連携室』です。リハビリや療養を主体とする病院に転院の調整を行ったり、地域のケアマネジャーの紹介をするのも地域連携室の仕事です。

また、上記の相談・支援業務以外にも、地域の医療機関からの診療予約や入院受け入れ、セカンドオピニオン、かかりつけ医の紹介、ご紹介頂いた医療機関へ患者様の情報を共有するための返書の郵送、公開講座のお知らせなども行っています。

地域医療連携室は、地域の医療機関や様々な保健・福祉サービス機関との『連携の窓口』として、切れ目のない医療・看護・介護サービスが提供できるように日々頑張っています。患者さまのより良い療養を支えるために様々な情報を用意し、お待ちしておりますので、「ちょっと相談したい」という方も、どうぞ気軽にお立ち寄りください。



◆◆◆2月の教室案内◆◆◆

- ◆カンガルー教室 2月 1・ 8・ 15・ 22日 午後 1時30分～ 第1会議室
- ◆アトピーカレッジ 2月 3・ 10・ 17・ 24日 午前10時～11時 第2会議室
- ◆乳幼児アトピー教室 2月 6・ 13・ 20・ 27日 午後 2時～3時 第2会議室

※2月10日のアトピーカレッジは第1会議室で行います

◆◆◆3月の教室案内◆◆◆

- ◆カンガルー教室 3月 8・ 15・ 22・ 29日 午後 1時30分～ 第1会議室
- ◆アトピーカレッジ 3月 10・ 17・ 24・ 31日 午前10時～11時 第2会議室
- ◆乳幼児アトピー教室 3月 10・ 17・ 24・ 31日 午後 2時～3時 第2会議室

※3月10日のアトピーカレッジは第1会議室で行います